

		たものをつかんだり握ったりできる
	中等度	
	軽度	物をつかむまたはにぎることができる
445 手と腕の使用	完全	目的のある動きはできない
	重度	
	中等度	
	軽度	手と腕を前後、または左右に、目的のある動きがみられる
510 自分の身体を洗うこと	完全	できない
	重度	少しできる
	中等度	
	軽度	
530 排泄	完全	オムツ
	重度	介助者が排泄を誘導し、介助すればオムツ以外での排泄ができる
	中等度	事前に知らせ、介助すればオムツ以外での排泄ができる
	軽度	準備と後始末を概ね自分でできる
540 更衣	完全	全介助
	重度	介助すれば更衣をしようとするものの、できない
	中等度	介助すれば、そでを通す程度ならできる
	軽度	概ね自分でできる
550 食べること	完全	全介助
	重度	手づかみで食べることができるまたは食べようとする
	中等度	スプーンを使用して食べることができるが、こぼしが多く、見守りを含め介助が必要
	軽度	スプーンを使用し、概ね自力で食べる
710 基本的な対人関係	完全	人に対する反応がない
	重度	人の働きかけに対し、目の動きなどわずかに変化がある
	中等度	人の働きかけに対し、はっきりとした反応があり、慣れない職員でもその反応が分かる
	軽度	相手の認識・識別がある程度可能

機能障害

No:	(男・女)	記載医:	記載日 2005 . .
年齢:	歳 月	利用開始時年齢:	歳 月
施設形態:	児・通所 児・入所 者・通所 者・入所		
家族歴・既往歴:	無 ・ 有 ()		
知的障害の程度:	無 ・ 有 (軽度 中等度 重度 最重度)		
知的障害の原因:	不明 ・ 有 (ダウン症 その他染色体異常 奇形症候群 脳形成障害 感染症 周生期異常 その他)		
脳性麻痺:	無 ・ 有 (痙性 アテトーゼ型 低緊張型 その他 / 四肢麻痺 両麻痺 片麻痺 その他)		
自閉性障害:	無 ・ 有		
行動異常:	無 ・ 有 (自傷 他害 物壊し 多動 こたわり パニック 食事問題 睡眠問題 粗暴性 騒がしさ 排泄問題 その他)		
精神疾患:	無 ・ 有 (統合失調症 そううつ病 神経症 その他)		
てんかん:	無 ・ 有 (てんかん型 発作型)		
	発作頻度 (1/日, 1/週, 1/月, 1/半年, 1/年, 1/数年)		
身体合併症:	無 ・ 有 (喘息 心疾患 筋骨格系疾患 神経疾患 血液疾患 腎疾患 内分泌疾患 糖尿病 痛風 高脂血症 その他)		
	呼吸障害(閉塞性・中枢性・混合性無呼吸) GER		
主な医療的ケア	無 ・ 経管栄養 吸入・吸引 気管切開(単純気切・喉頭気管分離等)人工呼吸器装着(終日・夜間) その他		
服薬状況:	無 ・ 有 (抗精神病薬 抗うつ薬 抗不安薬 抗てんかん薬 睡眠薬 抗潰瘍剤 その他)		

機能障害	現在	程度(1軽度 2中等度 3重度 4最重度)	既往
------	----	-----------------------	----

I 精神機能

b 110	意識機能 (意識障害、意識消失など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 114	見当識機能 (時間や場所の見当識障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 117	知的機能 (知的障害、痴呆など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 122	全般的な心理社会的機能 (社会的相互作用の障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 126	気質と人格の機能 (情緒不安定、協調性の欠如など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 130	活力と欲動の機能 (衝動制御困難、意欲の欠如など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 134	睡眠機能 (不眠、睡眠周期の乱れなど)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 140	注意機能 (集中困難、注意の共有困難など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 144	記憶機能 (作業記憶障害、長期記憶障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 147	精神運動機能 (精神運動抑制、興奮など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 152	情動機能 (感情の平板化、感情失禁など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 156	知覚機能 (聴覚認知障害、視覚認知障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 160	思考機能 (強迫症状、妄想など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 164	高次認知機能 (プランニング障害、柔軟性の欠如など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 167	言語に関する精神機能 (話し・書き言葉の受容・表出障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 172	計算機能 (計算能力障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 176	複雑な運動を順序立てて行う精神機能 (失行など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 180	自己と時間の経験の機能(離人症、自己身体像障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)

II 感覚機能と痛み

b 210	視覚機能 (視力障害、視野障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 215	目に付属する構造の機能 (眼振、眼球運動障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 220	目とそれに付属する構造に関連した感覚 (かゆみなど)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 230	聴覚機能 (聴覚機能障害、音源定位困難など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 235	前庭機能 (身体バランス障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 240	聴覚と前庭の機能に関連した感覚 (耳鳴り、めまいなど)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 250	味覚 (味覚障害、味覚鈍麻など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 255	嗅覚 (嗅覚障害、嗅覚鈍麻など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 260	固有受容覚 (位置覚障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 265	触覚 (触覚過敏、しびれ感など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 270	温度やその他の刺激に関連した感覚機能(温度覚消失など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 280	痛みの感覚 (痛覚過敏、痛覚脱失など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)

III 音声と発話の機能

b 310	音声機能 (発声困難、嚔声など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 320	構音機能 (構音障害など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)

機能障害

		現在	程度(1軽度 2中等度 3重度 4最重度)	既往	
b 330	音声言語の流暢性とリズムの機能 (非流暢な発話など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明 非該当	以前有り(歳頃)
b 340	代替性音声機能 (歌・泣き声の発声困難など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明 非該当	以前有り(歳頃)

IV 心血管・血液・免疫・呼吸器系の機能

b 410	心機能 (心拍数異常、不整脈など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 415	血管の機能 (動脈硬化、静脈瘤など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 420	血圧の機能 (高・低血圧など)	無 ・ 有	1 2 3 4	不明	非該当	以前有り(歳頃)

機能障害

b 430	血液系の機能（凝固異常、貧血など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 435	免疫系の機能（アレルギー反応、易感染性など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 440	呼吸機能（呼吸数異常、不規則呼吸など）									
4400	呼吸数(速すぎる・遅すぎる呼吸など)	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
4401	呼吸リズム(不規則な呼吸など)	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
4402	呼吸の深さ(浅い呼吸など)	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 445	呼吸筋の機能（呼吸筋障害など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 455	運動耐容能（持久力不足、易疲労性など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 460	心血管系と呼吸系に関連した感覚（呼吸困難感など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
V 消化器系・代謝系・内分泌系の機能										
b 510	摂食機能（嚥下障害、逆流、空気嚥下症など）									
5100	吸引 sucking	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
5101	咬断 biting	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
5102	臼磨 chewing	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
5103	口中での食物の処理	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
5104	唾液分泌	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
5105	嚥下	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
5106	逆流と嘔吐	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 515	消化機能（吸収不良、腸閉塞など）									
5150	胃腸での食物の移動	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
5151	食物の破碎	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
5152	栄養の吸収	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
5153	食物への耐性	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 520	同化機能（栄養貯蔵能力の障害など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 525	排便機能（便秘、下痢、鼓腸など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 530	体重維持機能（肥満、るいそうなど）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 535	消化器系に関連した感覚（吐き気、胸やけなど）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 540	全般的代謝機能（基礎代謝亢進、代謝機能障害など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 545	水分・ミネラル・電解質バランスの機能（水分貯留など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 550	体温調節機能（低・高体温、体温調節機能障害など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 555	内分泌腺機能（下垂体・甲状腺機能障害など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
VI 尿路・性・生殖の機能										
b 610	尿排泄機能（腎機能障害、水腎症など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 620	排尿機能（尿閉、頻尿など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 630	排尿機能に関連した感覚（残尿感など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 640	性機能（性的逸脱行為など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 650	月経の機能（月経前緊張症、不規則月経など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 660	生殖の機能（生殖能力障害など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 670	性と生殖の機能に関連した感覚（月経困難症など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
VII 神経筋骨格と運動に関する機能										
b 710	関節の可動性の機能（可動域制限、過度運動性など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 715	関節の安定性の機能（関節脱臼など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 720	骨の可動性の機能（固着による骨可動域制限など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 730	筋力の機能（筋力低下、麻痺など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 735	筋緊張の機能（筋緊張低下、筋緊張亢進など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 740	筋の持久性機能（持続運動困難など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 750	運動反射機能（腱反射異常、逃避反射消失など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 755	不随意運動反射機能（姿勢反応障害など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 760	随意運動の制御機能（随意運動障害、協調運動障害など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 765	不随意運動の機能（アトーゼ、チックなど）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 770	歩行パターン機能（痠性歩行、跛行など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 780	筋と運動機能に関連した感覚（筋のこわばり感など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
VIII 皮膚および関連する構造の機能										
b 810	皮膚の保護機能（皮膚潰瘍、皮膚肥厚、褥瘡など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 820	皮膚の修復機能（皮膚症状改善不良など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 840	皮膚に関連した感覚（かゆみ、むずむず感など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 850	毛の機能（毛の色素異常、脱毛症など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)
b 860	爪の機能（爪の性状や機能の異常など）	無・有	1	2	3	4	不明	非該当	以前有り(歳頃)

現在している活動

No: (男・女) 記載者職種:
 年齢: 歳 カ月 記載日: 2005・
 施設形態: 児・通所 児・入所 者・通所 者・入所

〔 0:制限なし 1:軽度の制限 2:中等度の制限 3:重度の制限 4:完全な制限 8:不明 9:非該当 〕
 ~25%程度 ~50%程度 ~95%程度 ほぼ100%

よりよい支援・環境があれば、
 もっとできそう:
 5年後は現在よりも支援が必要になりそう:○

活動と参加	現在している活動									よりよい支援・環境があれば、 もっとできそう:	5年後は現在よりも支援が必要になりそう:○	
I 学習と知識の応用												
d 110	注意して視ること(TVや行事の様子を見る)	0	1	2	3	4	8	9				
d 115	注意して聞くこと(音楽や話を聞く)	0	1	2	3	4	8	9				
d 120	目的ある感覚(味わったり、においをかぐ)	0	1	2	3	4	8	9				
d 130	模倣 (ジェスチャーや言葉をまねる)	0	1	2	3	4	8	9				
d 135	反復(数を数えたり、文を朗読する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 140	読むことの学習(文字や句読点を理解する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 145	書くことの学習(正しい文法で単語などを書く)	0	1	2	3	4	8	9				
d 150	計算の学習(数を活用したり+などの記号を用いる)	0	1	2	3	4	8	9				
d 155	技能の習得(箸や鉛筆などを使う、サッカーの試合をする)	0	1	2	3	4	8	9				
d 160	注意を集中すること(音に気をとられず集中する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 163	思考(物事を考えたり、反省したりする)	0	1	2	3	4	8	9				
d 166	読むこと(新聞や本を読む)	0	1	2	3	4	8	9				
d 170	書くこと(日記や手紙を書く)	0	1	2	3	4	8	9				
d 172	計算(計算を行う)	0	1	2	3	4	8	9				
d 175	問題解決(問題や状況の解決法を見出す)	0	1	2	3	4	8	9				
d 177	意思決定(品物を選んで購入する)	0	1	2	3	4	8	9				
II 一般的な課題と要求												
d 210	単一課題の遂行(本を読むなどの課題を一人またはグループで行う)	0	1	2	3	4	8	9				
d 220	複雑課題の遂行(作業などの課題を一人またはグループで行う)	0	1	2	3	4	8	9				
d 230	日課の遂行(日課を計画し、管理、達成する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 240	ストレスとその他の心理的・身体的要求への対処(責任やストレスを伴う課題に取り組む)	0	1	2	3	4	8	9				
III コミュニケーション												
d 310	話し言葉の理解(話し言葉の意味や言外の意味を理解する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 315	非言語的メッセージの理解(ジェスチャーや絵から意味を理解する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 320	公式手話によるメッセージの理解(手話を理解する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 325	書き言葉によるメッセージの理解(文字の意味や文章の意味を理解する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 330	話すこと(話し言葉で意思を伝える)	0	1	2	3	4	8	9				
d 335	非言語的メッセージの表出(ジェスチャーや絵を用いて意思を伝える)	0	1	2	3	4	8	9				
d 340	公式手話によるメッセージの表出(手話をういて意思を伝える)	0	1	2	3	4	8	9				
d 345	書き言葉によるメッセージの表出(文字を書き意思を伝える)	0	1	2	3	4	8	9				
d 350	会話(一対一または多人数で会話をする)	0	1	2	3	4	8	9				
d 355	ディスカッション(一対一または多人数で議論する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 360	コミュニケーション用具および技法の利用(電話やメールを用いて意思伝達を行う)	0	1	2	3	4	8	9				
IV 運動・移動												
d 410	基本的な姿勢の変換(横になったり座ったりする)	0	1	2	3	4	8	9				
d 415	姿勢の保持(座る、立つなどの姿勢を保つ)	0	1	2	3	4	8	9				
d 420	乗り移り(座ったり寝たりしたまま移動する)	0	1	2	3	4	8	9				
d 430	持ち上げることと運ぶこと(物を手で持って運んだり背中に担いで運ぶ)	0	1	2	3	4	8	9				
d 435	下肢を使って物を動かすこと(ボールを蹴ったり自転車こいでたりする)	0	1	2	3	4	8	9				
d 440	細かな手の使用(物をつまんだり取っ手を握ったりする)	0	1	2	3	4	8	9				
d 445	手と腕の使用(ドアを押し引きや、ボールを投げる)	0	1	2	3	4	8	9				
d 450	歩行(長距離を、様々な地面で、障害物を避けながら歩く)	0	1	2	3	4	8	9				
d 455	移動(階段を上り下りしたり、走ったり、水泳したりする)	0	1	2	3	4	8	9				

現在している活動

	現在している活動	よりよい支援・環境があれば、もっとできそう:	5年後は現在よりも支援が必要になりそう:○
d 460	さまざまな場所での移動(屋内外や、街路を歩行して移動する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 465	用具を用いての移動(車椅子やスケートなどの道具を用いて移動する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 470	交通機関や手段の利用(自家用車やバス、飛行機などで移動する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 475	運転や操作(自転車や自動車などを運転する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 480	交通手段として動物に乗ること(馬などの動物に乗って移動する)	0 1 2 3 4 8 9	
V セルフケア			
d 510	自分の身体を洗うこと(体を洗い、拭き乾かす)	0 1 2 3 4 8 9	
d 520	身体各部の手入れ(肌や歯、髪、爪などを整える)	0 1 2 3 4 8 9	
d 530	排泄(排尿・便、生理のケアをする)	0 1 2 3 4 8 9	
d 540	更衣(衣服の着脱、選択をする)	0 1 2 3 4 8 9	
d 550	食べること(食べ物を箸などで口に運んだり会食をしたりする)	0 1 2 3 4 8 9	
d 560	飲むこと(缶ジュースを開け、ストローなどを用いて飲む)	0 1 2 3 4 8 9	
d 570	健康に注意すること(体調に気をつける)	0 1 2 3 4 8 9	
VI 家庭生活			
d 610	住居の入手(住居を購入・賃借したり家具を整備する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 620	物品とサービスの入手(日用品を購入したり貯蔵したりする)	0 1 2 3 4 8 9	
d 630	調理(食事の調理、配膳をする)	0 1 2 3 4 8 9	
d 640	調理以外の家事(炊事、選択、掃除などを行う)	0 1 2 3 4 8 9	
d 650	家庭用品の管理(衣服や家具、電化製品などを手入れする)	0 1 2 3 4 8 9	
d 660	他者への援助(他者の食事や入浴の介助を行う)	0 1 2 3 4 8 9	
VII 対人関係			
d 710	基本的な対人関係(状況に応じて適切に他者と関わる)	0 1 2 3 4 8 9	
d 720	複雑な対人関係(社会的ルールや慣習に従って他者と関わる)	0 1 2 3 4 8 9	
d 730	よく知らない人との関係(知らない人に道を尋ねたり挨拶をしたりする)	0 1 2 3 4 8 9	
d 740	公的な関係(職場の上司や関係者と適切に関わる)	0 1 2 3 4 8 9	
d 750	非公式な社会的関係(友人や隣人と関係を作り保つ)	0 1 2 3 4 8 9	
d 760	家族関係(親子、兄弟姉妹や親類と関係を作り保つ)	0 1 2 3 4 8 9	
d 770	親密な関係(親密な夫婦、恋人関係を維持する)	0 1 2 3 4 8 9	
VIII 主要な生活領域			
d 810	非公式な教育(親から技能を学んだり家庭教育を受ける)	0 1 2 3 4 8 9	
d 815	就学前教育(保育園や幼稚園で教育を受ける)	0 1 2 3 4 8 9	
d 820	学校教育(学校で他の生徒と協調して学ぶ)	0 1 2 3 4 8 9	
d 825	職業訓練(職業訓練を受ける)	0 1 2 3 4 8 9	
d 830	高等教育(大学や専門教育機関で学ぶ)	0 1 2 3 4 8 9	
d 840	見習研修(見習研修を受ける)	0 1 2 3 4 8 9	
d 845	仕事の獲得・維持・終了(仕事を見つけ仕事につき職務を遂行する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 850	報酬を伴う仕事(賃金を得て労働に従事する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 855	無報酬の仕事(ボランティアや奉仕活動に参加する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 860	基本的な経済的取引(金銭の使用や貯金をする)	0 1 2 3 4 8 9	
d 865	複雑な経済的取引(商品の売買や銀行口座をもつ)	0 1 2 3 4 8 9	
d 870	経済的自給(将来のニーズに対して財産を管理する)	0 1 2 3 4 8 9	
IX コミュニティライフ・社会生活・市民生活			
d 910	コミュニティライフ(地域グループに関与したり、結婚式などの式典に参加する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 920	レクリエーションとレジャー(スポーツや旅行、趣味の活動を行う)	0 1 2 3 4 8 9	
d 930	宗教とスピリチュアリティ(宗教活動を行う)	0 1 2 3 4 8 9	
d 940	人権(基本的人権を享受する)	0 1 2 3 4 8 9	
d 950	政治活動と市民権(社会的活動に関与したり、選挙に参加したりする)	0 1 2 3 4 8 9	

Ⅱ．分担研究報告

3. 重症心身障害児・者の機能退行：新生児期無酸素性脳症
後遺症における摂食機能の検討

加我牧子

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）
分担研究報告書

重症心身障害児・者の機能退行：
新生児期無酸素性脳症後遺症における摂食機能の検討

分担研究者 加我牧子
国立精神・神経センター精神保健研究所 知的障害部長

研究要旨：重症心身障害児・者のうち、新生児期無酸素性脳症（仮死）後遺症例の生活機能を国際生活機能分類（ICF）の項目リストを用いて評価し、特に摂食機能について分析を行った。摂食状況が変化しなかった不変群（A）、年々食事形態や食事量が低下した、または経管栄養に変更した群（B）、一時的に低下したが、その後向上したなど摂食状況が変動した群（C）の3群に分けて検討した。半数で摂食状況の変化が観察され、B群は最重度の知的障害、呼吸障害を合併している割合が高かった。A群は嚥下機能障害の程度が軽度または無い割合が比較的高かった。いずれの群でも咀嚼機能の障害の割合が高かった。主に呼吸器系の合併疾患の改善や摂食指導等の環境変化により、摂食状況が向上したケースがあった。今後、客観的な基準に基づく機能障害の経時的評価が重要であると考えられた。

A. 研究目的

重症心身障害児・者（重症児者）の長期臨床経過において、食事摂取や運動能力、精神面の機能が退行する例が存在する。本研究では、原疾患が進行しないはずの新生児期無酸素性脳症（仮死）後遺症例の生活機能について、国際生活機能分類（ICF）の項目リストを用いて評価し、現状を把握するとともに、その有用性と問題点について検討した。また、摂食状況の変化の有無について検討し、その要因分析を行った。

B. 研究方法

対象者は新生児期無酸素性脳症（仮死）後遺症にて重症児者となり、平成17年3月に東京都内のF療育センターに入所または通所していた39名であった。調査票として本

研究班で開発した機能障害シート77項目と現在している活動シート82項目から構成されたリストを用いた。

対象者情報に「医療的ケア」や「大島分類」等の記載欄を追加し、機能障害の「摂食機能」等は4桁項目を追加し、詳細に状態を把握できるようにした。機能障害シートの記入は医師が行い、現在の活動シートの記入は医師、看護師、保育士、療育員が協力して行った。

データはマイクロソフト社 Excel に入力し、集計した。尚、統計学的有意差の有無は統計解析パッケージ Stat View ver 5

（Abacus Concepts, CA, USA）を用いて、 χ^2 検定により判定し、p 値 0.05 以下を有意とした。

摂食状況の変化はカルテや食事箋で確認

し、摂食状況を3群に分けた。すなわち、A群は摂食状況が変化しなかった不変群、B群は年々食事形態や食事量が低下した、または経管栄養に変更した群、C群は一時的に低下したが、その後向上したなど摂食状況が変動した群として、3群の比較検討を行った。

C. 研究結果

1) 対象者の属性

A群(摂食状況不変群)は18名で、平均年齢は39.9(±14.7;標準偏差、以下同じ)、最年少例は3歳、最高齢者は60歳であった。性別は男性8名(44.4%)、女性10名(55.6%)であった(図1、2)。B群(摂食状況低下群)は14名で、平均年齢は39.2(±10.8)、最年少は21歳、最高齢は60歳であった。性別は男性10名(71.4%)、女性4名(28.6%)であった(図3、4)。C群(摂食状況変動群)は7名で、平均年齢は30.6(±7.4)、最年少は11歳、最高齢は54歳であった。性別は男性2名(28.6%)、女性5名(71.4%)であった(図5、6)。

全員に知的障害があり、知的障害の程度は「最重度」がA群で15名(83.3%)、B群で14名(100%)、C群で6名(85.7%)であった(図7~9)。「重度」はA群で3名(16.7%)、C群で1名(14.3%)であった。また、大島分類1がA群で10名(55.6%)、B群で11名(78.6%)、C群で5名(71.4%)、大島分類2がA群で3名(16.7%)、C群で1名(14.3%)、大島分類3がA群で1名(5.6%)、大島分類4がB群で1名(7.1%)、大島分類5がA群で1名(5.6%)、B群で1名(7.1%)、大島分類8がA群で2名(11.1%)、B群で1名(7.1%)、大島分類9がA群で1

名(5.6%)、C群で1名(14.3%)であり、「ねたきり」(大島分類1、4、9)はA群で11名(61.1%)、B群で12名(85.7%)、C群6名(85.7%)、「すわれる」(大島分類2、3、8)はA群で6名(33.3%)、B群で1名(7.1%)、C群で1名(14.3%)、「歩行障害」(大島分類5)はA群で1名(5.6%)、B群で1名(7.1%)と自力歩行可能な対象者はいなかった(図10~12)。

対象を新生児期無酸素性脳症(仮死)後遺症としたため、原疾患は新生児期無酸素性脳症であり、全例脳性麻痺と精神遅滞を合併していた。脳性麻痺の内訳は痙性四肢麻痺がA群で14名(77.8%)、B群で10名(71.4%)、C群で6名(85.7%)と最も多く、アテトーゼ型四肢麻痺がA群4名(22.2%)、B群で3名(21.4%)、C群で1名(14.3%)、低緊張型四肢麻痺がB群で1名(7.1%)であった(図13~15)。

てんかん合併例はA群で9名(50.0%)であり、発作頻度は1年から数年に1回が5名(55.6%)と多かったが、月に1回程度が3名(33.3%)、週に1回以上が1名(11.1%)でみられた(図16)。B群ではてんかん合併例が12名(85.7%)であり、発作頻度は1年から数年に1回が6名(50.0%)、月に1回程度が2名(16.7%)であったが、週に1回以上が4名(33.3%)と多かった(図17)。C群ではてんかん合併例は5名(71.4%)であり、発作頻度は全例が半年から数年に1回であった(図18)。

身体合併症として便秘、呼吸障害(閉塞性呼吸障害、無呼吸、喘息等)、胃食道逆流症の順で多かった。便秘はA群で14名(77.8%)、B群で12名(85.7%)、C群で5名(71.4%)であった(図19)。無呼吸等の

呼吸障害は A 群で 10 名 (55.6%)、B 群で 12 名 (85.7%)、C 群で 5 名 (71.4%) であった (図 20)。胃食道逆流症が A 群で 4 名 (22.2%)、B 群で 7 名 (50.0%)、C 群で 4 名 (57.1%) であった (図 21)。

医療的ケアとして、経管栄養、吸引、気管切開、人工呼吸器等について、対象者情報として把握した (図 22)。経管栄養を行っているのは A 群で 5 名 (27.8%)、B 群で 8 名 (57.1%)、C 群で 5 名 (71.4%) であった。吸引は A 群で 6 名 (33.3%)、B 群で 9 名 (64.3%)、C 群で 5 名 (71.4%) であった。気管切開は A 群で 4 名 (22.2%)、B 群で 2 名 (14.3%)、C 群で 5 名 (71.4%) であった。人工呼吸器使用は A 群の 2 名 (11.1%) のみであった。

2) 機能障害

機能障害 77 項目のうち、一人あたりの該当項目数は A 群で平均 42.8 項目 (55.6%) であり、最少例では 28 項目、最多例が 63 項目に該当した。B 群では平均 44.4 項目 (57.7%) であり、最少例では 32 項目、最多例が 54 項目に該当した。C 群で平均 45.5 項目 (59.2%) であり、最少例では 36 項目、最多例が 60 項目に該当した。

呼吸機能障害は、A 群では機能障害「無」が 13 名 (72.2%)、機能障害「あり」が 5 名 (27.7%) であったが、C 群では機能障害「あり」が 3 名 (42.9%)、B 群では 9 名 (64.3%)、と機能障害「あり」の割合が増加した。

呼吸機能 (図 23~25)、摂食機能 (図 26~28) と消化機能についてより詳細に把握するため、4 桁の項目を追加した。すなわち b4401 呼吸リズムは A 群では「重度」および「最重度」の機能障害が 3 名 (16.6%) みられ、機能障害「無」は 14 名 (77.8%)

であった。B 群では「重度」および「最重度」が 3 名 (21.4%)、機能障害「無」が 9 名 (64.2%)、そして C 群では「重度」および「最重度」1 名 (14.3%)、機能障害「無」が 5 名 (71.4%) であった。つまり、B 群は A 群と比較して機能障害「無」が少なく、「重度」および「最重度」の機能障害の割合が高かった。

b4402 呼吸の深さは A 群では「重度」および「最重度」の機能障害が 4 名 (22.2%)、機能障害「無」が 13 名 (72.2%) であったが、B 群では「重度」および「最重度」3 名 (21.4%)、機能障害「無」が 5 名 (35.7%)、C 群では「重度」および「最重度」1 名 (14.3%)、機能障害「無」が 4 名 (57.1%) であった。つまり、機能障害「無」の A 群での割合は B 群の 2 倍以上であり、C 群での割合はその中間であった。

なお、摂食状況が不変であった A 群の対象者の中には、咀嚼・嚥下が全く獲得できず、早期から継続的に経管栄養であった最重度の重症児者が含まれていた。該当者は 4 名であり、A 群の 22.2% を占めた (うち 2 名は人工呼吸器装着)。この 4 名を除外して統計学的処理を行なったところ、A 群と B 群間の χ^2 検定で b4402 呼吸の深さの項目において有意差 ($p < 0.05$) を認めた。

b5101 咬断は A 群では「重度」および「最重度」の機能障害が 10 名 (55.6%)、機能障害「無」が 3 名 (16.7%) であったが、B 群では「重度」および「最重度」12 名 (85.7%)、C 群では「重度」および「最重度」6 名 (85.7%) であり、B、C 群共に機能障害「無」の該当者はいなかった。b5102 臼磨は A 群では「重度」および「最重度」の機能障害が 9 名 (50.0%)、機能障害「無」が 3 名 (16.6%)

であったが、B群では「重度」および「最重度」12名(85.7%)、C群では「重度」および「最重度」6名(85.7%)であり、B、C群共に機能障害「無」の該当者はいなかった。B5105 嚥下はA群では「重度」および「最重度」の機能障害が8名(44.4%)、機能障害「無」が9名(50.0%)、B群では「重度」および「最重度」10名(71.4%)、機能障害「無」が2名(14.3%)、C群では「重度」および「最重度」4名(57.1%)、機能障害「無」が1名(14.3%)であった。B5106 逆流と嘔吐はA群では「重度」および「最重度」の機能障害が4名(22.2%)、機能障害「無」が11名(61.1%)、B群では「重度」および「最重度」8名(57.1%)、機能障害「無」が4名(28.6%)、C群では「重度」および「最重度」4名(57.1%)、機能障害「無」が1名(14.3%)であった。

呼吸機能と同様に、摂食機能の4桁項目についても、乳児期から経管栄養であったA群の4名を除外して統計学的有意差の有無を判定した。その結果、A群とB群間の χ^2 検定でb5103 口中での食物の処理、b5106 逆流と嘔吐の項目において有意差

($p<0.05$)を認めた。b5101 咬断、b5102 臼磨、はA群と比較してB群、C群の機能障害が高度であったが、統計学的に有意差はなかった。b5105 嚥下についてはB群、C群、A群の順で機能障害が重度であったが、有意差はなかった。

摂食機能を咀嚼機能(b5101 咬断、b5102 臼磨、b5103 口中での食物の処理)と嚥下機能(b5105 嚥下)に大別した。咀嚼機能はいずれの群でも機能障害の割合が70%を越えており、高かった。嚥下機能については、A群の50%で機能障害を認めなかった

が、B群では「重度」および「最重度」の機能障害が71.4%、C群では85.7%認めており、B群とC群では機能障害の割合は高く、程度が重度であった。

消化機能について4桁項目を4項目追加したが、3群とも機能障害「無」が多く、差がなかった。

3) 現在している活動

活動制限82項目のうち、一人あたりの該当項目数はA群で平均76.8項目であり、項目数は最少の例で74項目、最多の例は77項目、B群で平均76.9項目であり、項目数は最少の例で76項目、最多の例は77項目、C群で平均76.1項目であり、項目数は最少の例で74項目、最多の例は77項目であった。

制限の程度が全例で著しかったが、活動制限82項目のうち、「完全な制限」「不明」「非該当」を除く、わずかでも活動できていた項目、つまり「制限なし」「軽度の制限」「中等度の制限」「重度な制限」に該当する一人あたりの項目数を3群で比較した。A群では平均5.9項目、B群では5.6項目、C群では4.3項目であった。項目数はA群で最少の例で0項目、最多の例は21項目、B群で最少の例で0項目、最多の例は15項目、C群で最少の例で0項目、最多の例は20項目であった。また、わずかでも活動できていた該当者が過半数いた項目は、A群で領域Iの学習と知識の応用のd110 注意して視ること、d115 注意して聞くこと、領域IVの運動・移動のd410 基本的な姿勢の変換であった。B群とC群では領域Iの学習と知識の応用のd110 注意して視ること、d115 注意して聞くことであった。

D. 考察

本調査では、仮死後遺症例を摂食状況に応じて摂食状況不変 (A) 群、低下 (B) 群、変動 (C) 群の3群に分けて、ICF 項目リストを用いて生活機能の評価を試みた。対象者の身体合併症として、便秘、呼吸障害、胃食道逆流症が多かったため、機能障害の領域Ⅳの呼吸機能と領域Ⅴの摂食機能、消化機能について4桁項目を追加した。

重症児者の中で、精神運動発達がほとんどみられず、知的障害が最重度で有目的運動がほとんどない例が存在する。摂食状況が不変であった A 群の対象者の一部には、このような最重度の重症児者が含まれ、乳児期から咀嚼・嚥下が獲得できず、継続的に経管栄養であった。彼らは摂食状況が基本的に変化しないため、この群に含まれていた。このようなケースでは機能障害や機能退行を評価する際、困難な面があると考えたため、今回の検討では該当者 (4名) を除外して、 χ^2 検定による統計学的有意差の有無を判定した。

呼吸機能障害は A 群では「無」例が約7割であったが、B 群では機能障害「あり」が約6割いた。C 群はその中間であったが、臨床的な特徴として気管切開例の割合が約7割あり、他群と比較して高く、全例が喉頭気管分離術を施行されていた。分離術後は術前と比較し、呼吸状態が安定し、呼吸器系の合併疾患の改善が得られた。また、分離術が施行されていたため、摂食指導・訓練に伴う誤嚥等のリスクが軽減されたため、積極的に導入しやすかった。環境変化によって摂食状況が改善した例があったと考えられた。

摂食状況は B 群の半数において20歳代ま

で低下していた。低下した要因として、5名に嚥下機能障害が、1名に閉塞性の呼吸障害が、1名に胃食道逆流症が最も強く推測された。30歳代から50歳代で摂食状況が低下した7名のうち、3名が嘔吐や胃食道逆流を主とする消化器系の問題、2名は咀嚼機能障害、1名は合併疾患の悪化が嚥下機能障害以外に関与した要因として考えられた。そして、B 群の臨床的な特徴として、最重度の知的障害の割合が高く、呼吸障害を合併している割合が高いことが挙げられた。

原疾患が進行しないはずの仮死例であるが、対象とした半数で摂食状況の変化がみられた。このことから、客観的な基準に基づく機能障害を経時的に評価することが重要であると考えられた。つまり、経時的に項目を分析することにより、変化があったケースを明らかにすることができ、退行にいたった経緯や誘因、対応策や望まれる支援などの分析が可能となる。同時に、個々の状況に応じた対応を工夫することで「機能退行阻止」につながるかどうか、今後検討する必要があるとも思われる。

E. 結論

重症心身障害児・者のうち、原疾患が進行しないはずの新生児期無酸素性脳症 (仮死) 後遺症例の生活機能を国際生活機能分類 (ICF) の項目リストを用いて評価し、特に摂食機能について分析を行った。対象者の半数で摂食状況が変化した。摂食機能が低下した B 群は、最重度の知的障害、呼吸障害を合併している割合が高かった。変化しなかった A 群は嚥下機能障害の程度が軽度または無い割合が比較的高かった。咀嚼

機能はいずれの群でも障害されている割合が高かった。また、主に呼吸器系の合併疾患の改善や摂食指導等の環境変化により、摂食状況が向上したケースがあった。今後は客観的な基準に基づく機能障害の経時的評価が重要であると考えられた。

F. 研究発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし

研究協力者：小林朋佳、倉田清子（都立府中療育センター）、稲垣真澄（国立精神・神経センター精神保健研究所）

図 1

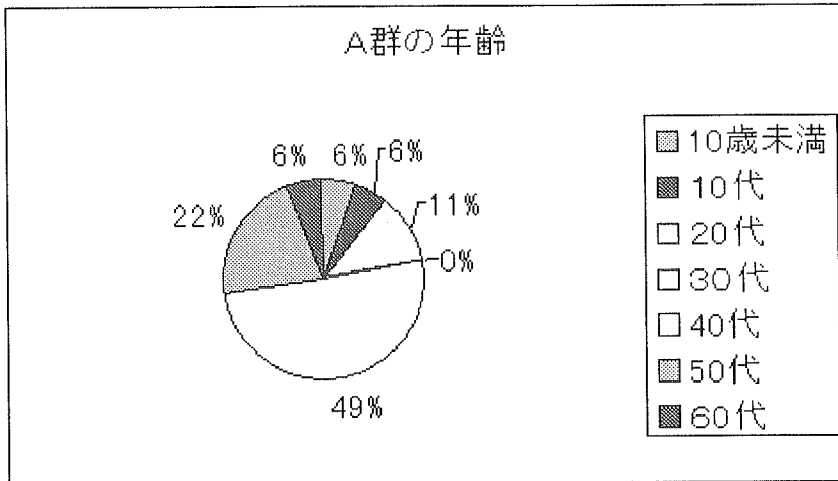


図 2

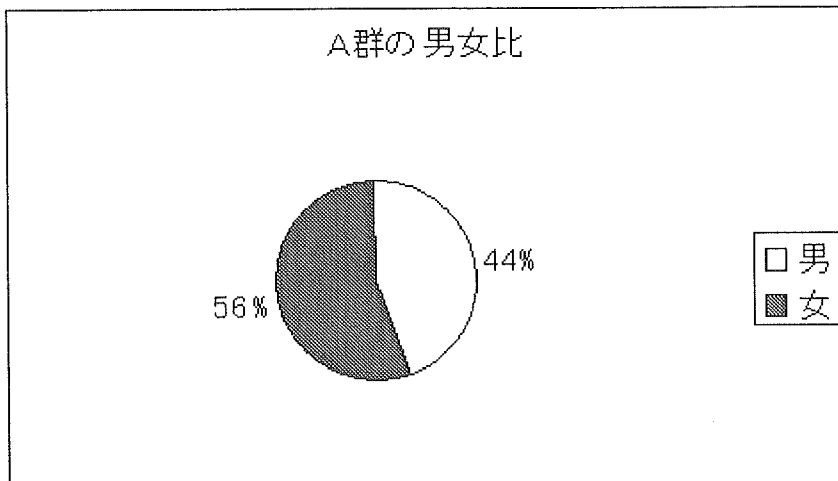


図 3

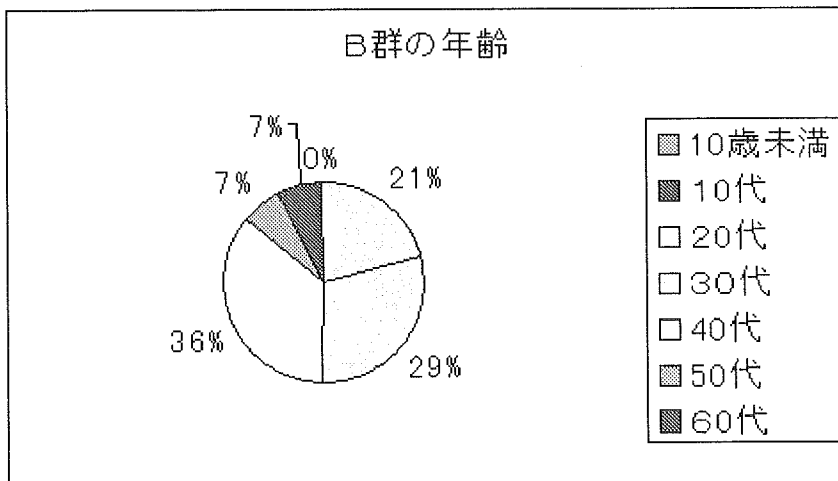


図 4

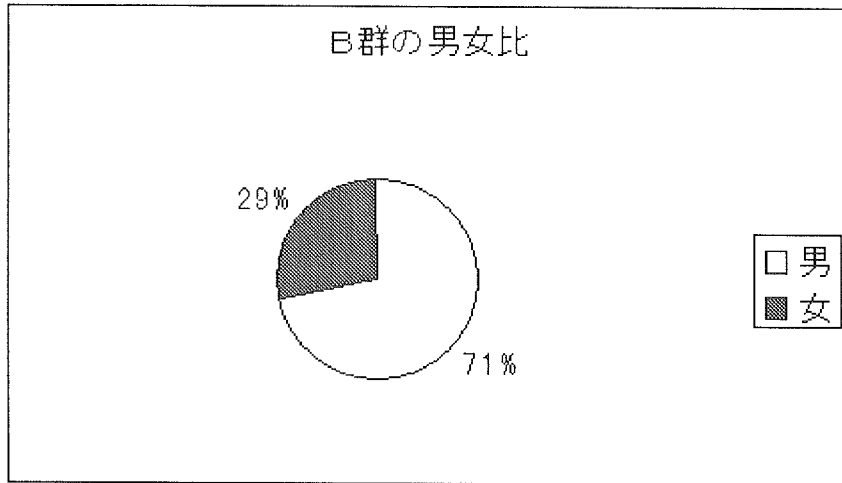


図 5

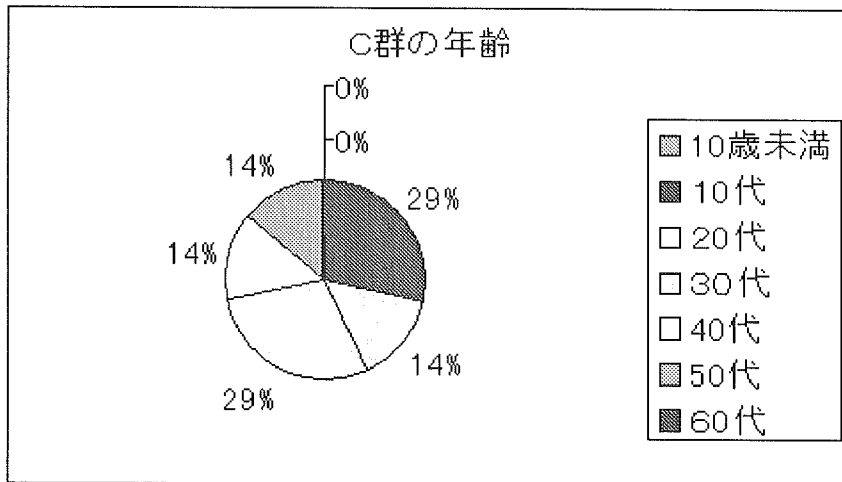


図 6

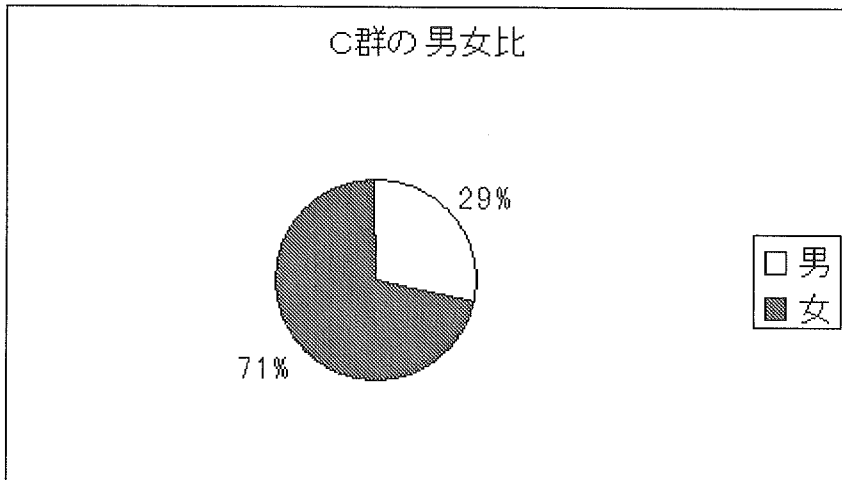


図 7

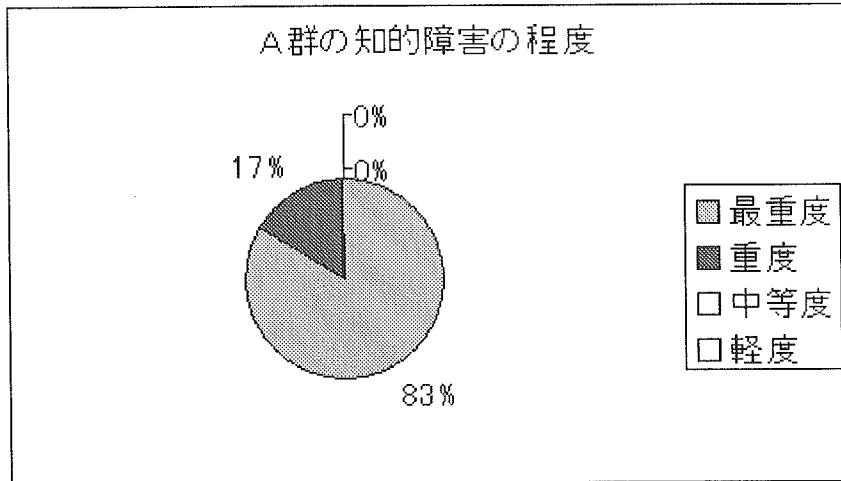


図 8

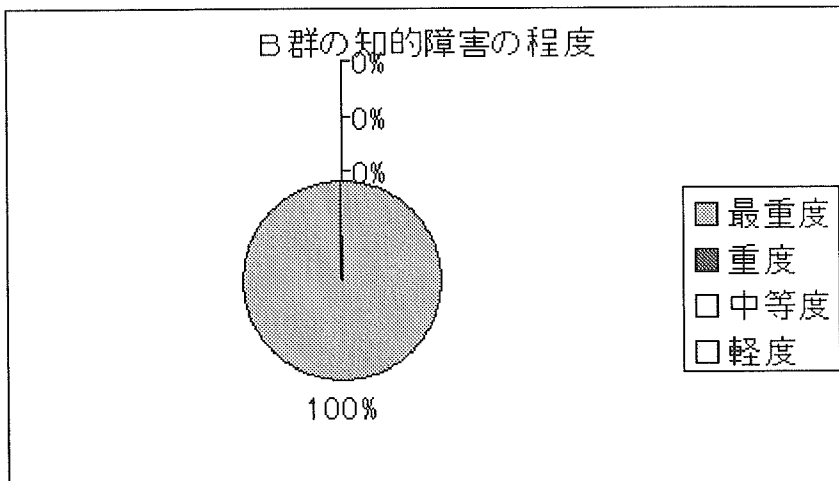


図 9

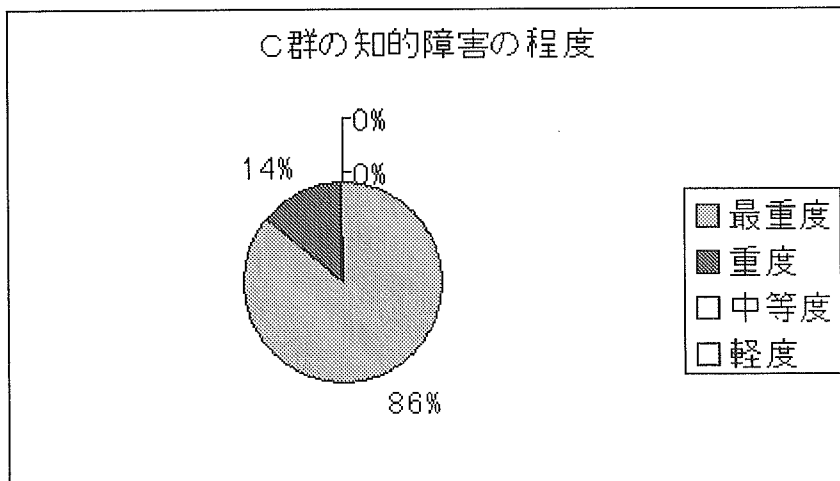


図 10

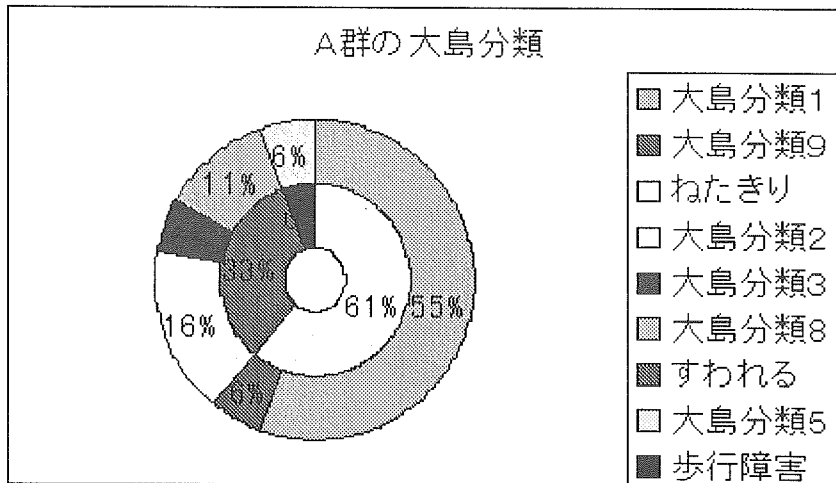


図 11

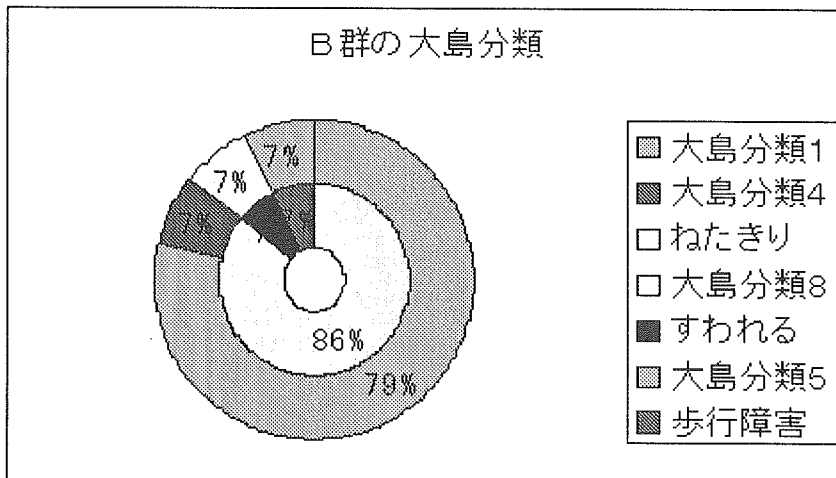


図 12

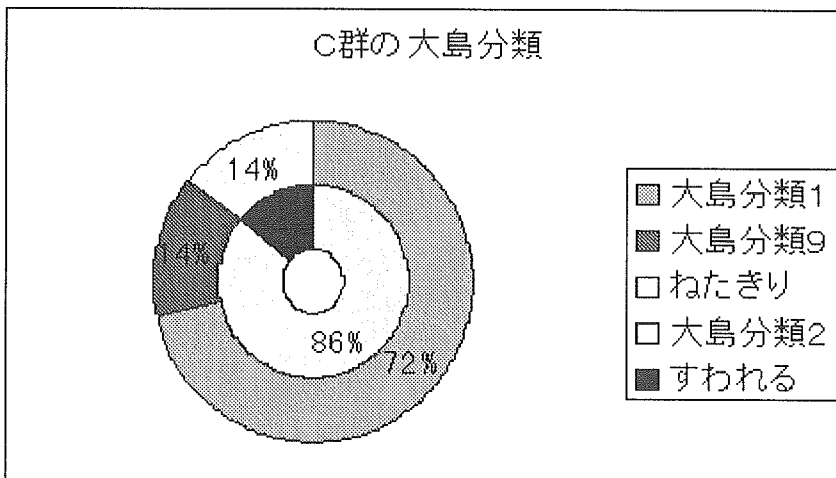


図 13

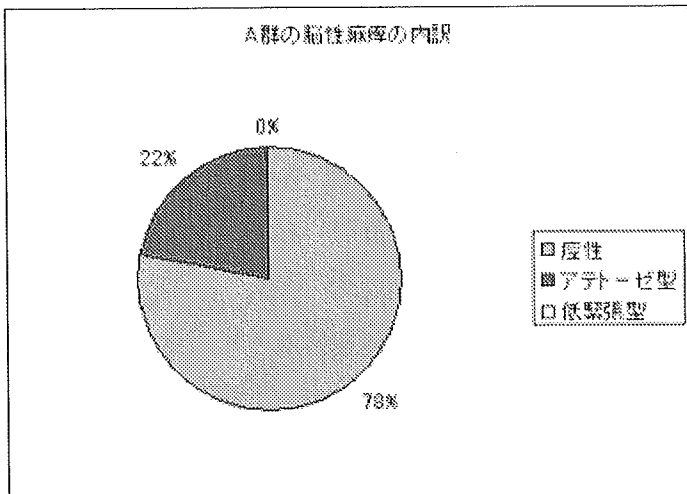


図 14

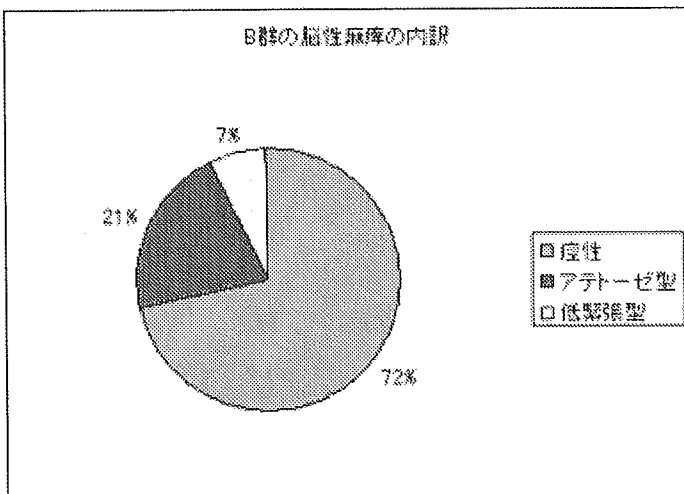


図 15

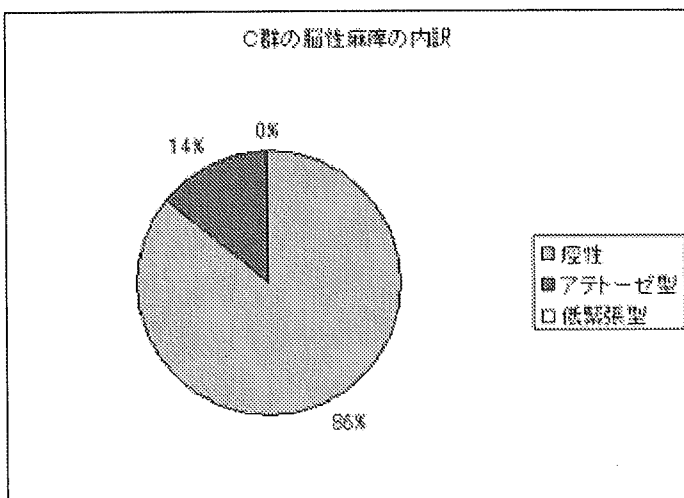


図 16

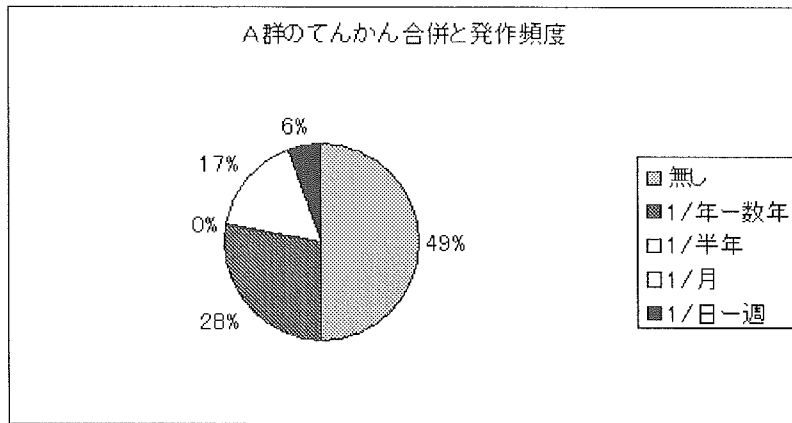


図 17

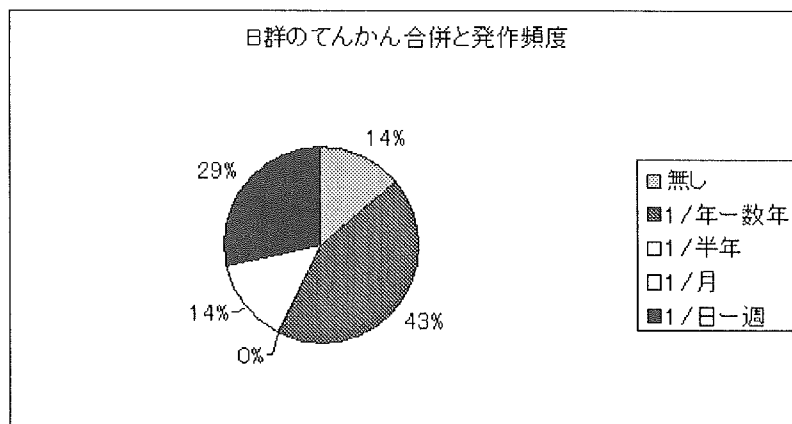


図 18

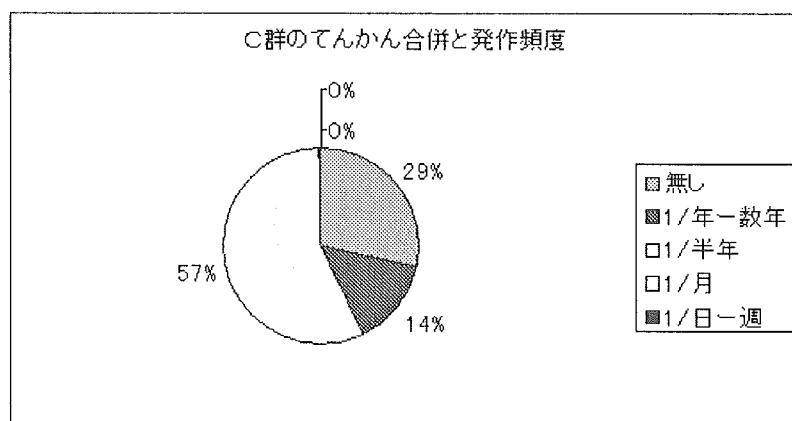


図 19

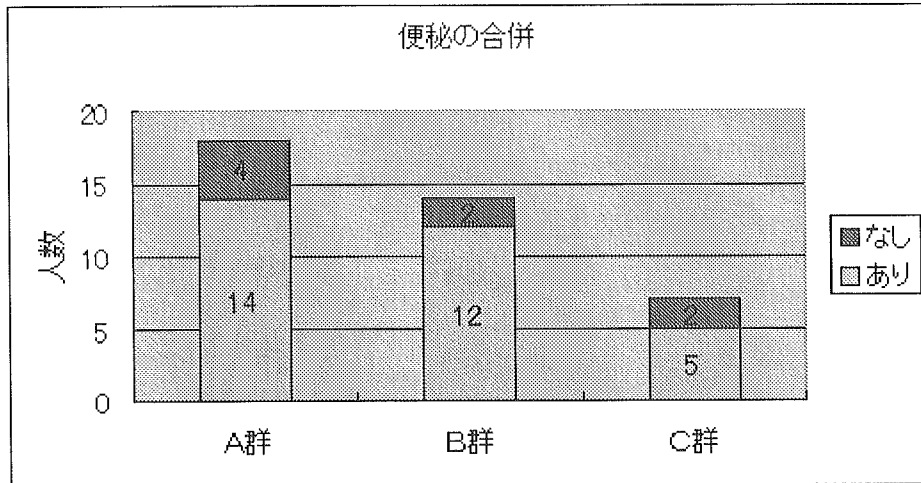


図 20

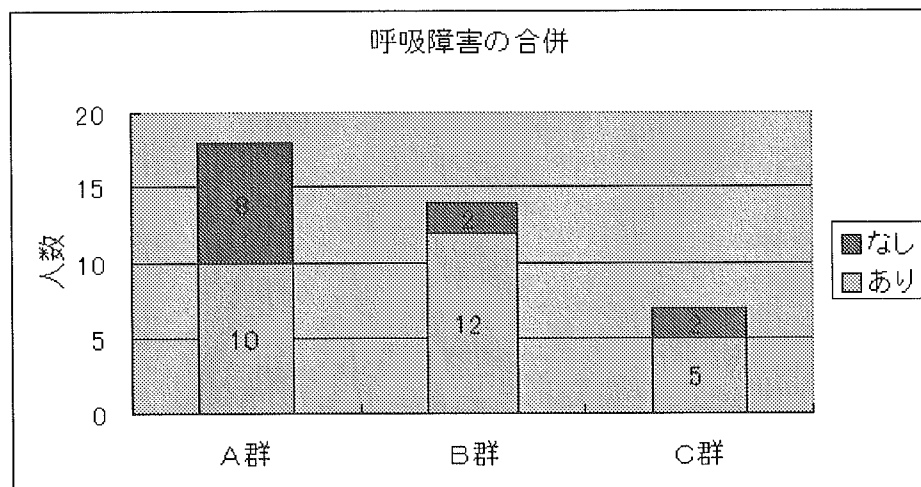


図 21

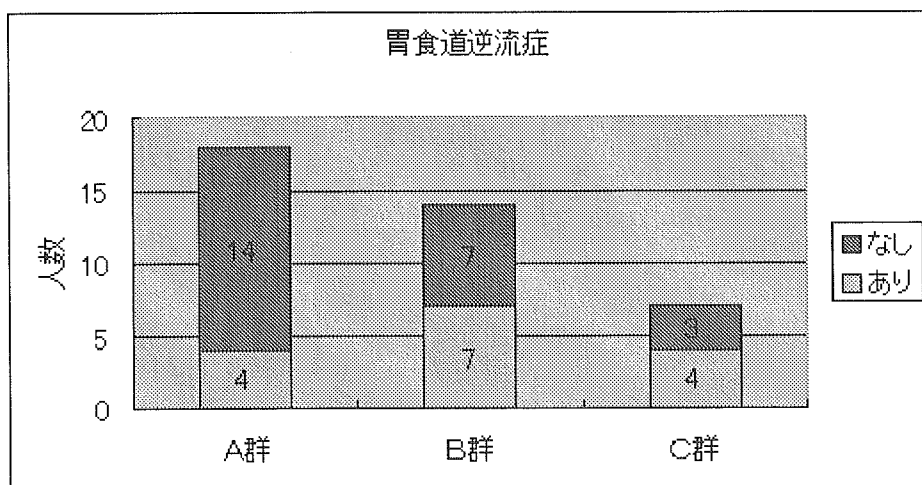


図 22

